

## 平成28年度 自己評価及び学校関係者評価書

平成29年3月10日  
札幌市立円山小学校

## 1 本年度の重点目標

- ◎ 経営理念「あふれる『愛』 みなぎる『力』 つよまる『絆』」  
 ○確かな学ぶ力を育む(学力向上プラン) ○豊かな心を育む(愛と絆育成プラン)  
 ○健やかな身体を育む(元気はつらつプラン) ○学校・家庭・地域と連携・協働する(家庭・地域連携わくわくプラ

## 2 本年度の経営方針

- ① 教育課程の編成・実施・評価・改善に努める(学校評価システムの充実)  
 ② 楽しさ・温かさ・厳しさのある学年・学級経営に努める  
 ③ 教職員の専門性を高める研修・研究活動の推進に努める  
 ④ 校務分掌組織の連携の強化と教育活動の焦点化、重点化を推進する  
 ⑤ 事務的作業の効率を図り、精神的ゆとりを生む  
 ⑥ 安全・安心な学校づくりを進める  
 ⑦ 研究会の取組を通して個々の授業力と学校力を高める  
 ⑧ 笑顔いっぱい職場づくりを進める  
 ⑨ 「Team 円山」の学校全サポート体制を確立する

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

&lt;評価&gt; A:4~3.30 B:3.29~2.50 C:2.49~1.7 D:1.69~(評価は別紙項目の平均値を左の数値に照らし合わせたもの)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況		自己評価の適切さ	改善策の適切さ
		教職員	保護者		
学力向上プラン	毎日の授業の積み重ねで子どもの「学び方」を育み、「確かな学力」の礎となる『確かな学ぶ力』をしっかりと育てる。(1・3・7・8)	B	B	A	A
	学習目標を明確にし、子どもたちの「できる」「わかる」「楽しい」が実現し、変容が実感できる授業を行う。(2・4・5・6・☆)	B	A	A	A
	<b>【改善の方策】</b> ・本校で設定している「『学ぶ力』育成プログラム」をさらに意識した指導を進める。 ・学力テストの分析を今後も継続する。その際、「『学ぶ力』育成プログラム」と関連付けて、授業への生かし方を考える。 ・個々の児童へのかかわりをさらに効果的なものにしていくため、TTや少人数指導、専科指導について、教科・学年・時期・単元・担当者等を総合的に考えていく。 ・学習効果を高める教材教具の選定・購入・管理等の方法を見直す。 ・オープンスペースという校舎の特徴を考慮した朝読書の在り方について児童・教職員とも共通理解を図る。 ・今年度より始めた「円山版 家庭学習」の定着を図り、主体的な家庭学習の習慣化を進める。 ・本校で作成した「各学年でくぐる学び」の共通理解や見直しを適宜図り、授業づくりの際には、教材の特質・児童の実態に即した目標・活動の設定を行う。 <b>【学校関係評価者による意見】</b> ・改善策について未記入ですが、具体策をお聞きしてから評価したいと考えました。ただし表記の内容からはAと推定しております。特に「わかる・楽しい」部分！ ・先生たちの日々の努力に感謝しております。平成29年度も、ご指導よろしくお願い申し上げます。 ・私は教育のプロではありませんので、学校に訪問した際の先生と児童との距離感でこの欄は評価させていただきました。 ・学力はとても高いと感じております。学校の意識の高さがうかがえます。 ・朝読書については、しっかり身に付いており、中学校でも継続して効果が上がっているようです。				
愛と絆育成プラン	学習や行事、ななかまど等の様々な取組に対して、子ども自身が目標や目的意識をもち、自分の蓄えた見方・感じ方・考え方を言動として表出できる子どもを育てる。(3・4・7・☆(47~50))	B	A	A	A
	縦や横のつながり、様々な立場の人とのかかわりから、「思いやる心」を具体的な姿を通して育む。(1・2・5・6・☆(51))	A	A	A	A
	<b>【改善の方策】</b> ・学校行事部と学級活動部、学校行事部と児童活動部で企画する取組を有機的に結び付け、児童の成長を促すより効果的な活動内容・時期・回数を検討する。 ・行事を単体でとらえるのではなく、1年間のつながりで発達段階ごとに目標を設定し直す。 ・児童の実態や社会的要請を踏まえて、安全授業の内容や指導法を見直す。 ・道徳の教科化を受け、本校の道徳教育についての見直しを図り、研修や研究を進める。 ・3つの「あ」の取組を今後も継続して力を入れて取り組む。 <b>【学校関係評価者による意見】</b> ・地域のイベントや活動のかかわりの中に、心の通う繋がりができるよう取り組んでいきたい。 ・上記同様 その他「思いやる心」=道徳と、知識技術リンクの重要性 ・大変良いと思います。 ・校外活動等で地域の方々と交流状況を見て判断させていただきました。 ・「愛と絆」の重要さや取組(改善策)が今一つわかりません。今後も模索していく必要があると思います。 ・向陵中の生徒を観察してみて円山小卒の中学生期の「思いやる心」は育ちつつあるように見える(ここ数年特に育ちつつあるように見えるが…自然と身に付いているように)。一般論として中学生に自己有用感の低さが見られるのが少し寂しい気がする。日本人本来の奥ゆかしさなのか、自信の無さなのか、親が謙虚に育てているためなのか。円山小の卒業式に行われる「自己の決意表明」はなかなか立派だし大切な行事と思うが、もっと色々な場面が多いとよいのだが(実際行われているのを私が知らないだけなのかも…?)				

元 気 は つ ら つ プ ラ ン	健康がいかに大切であるかを自覚し、そのために必要な活動に自ら目を向けられる子どもを育てる。(1・3・4・7)	B	B	A	A
	家庭での基本的な生活習慣や食育・食指導等の協力を呼びかけ、家庭と連携して意識を高める。(2・5・6)	B	A	A	A
	子ども自身が自分の身体・命を守るという意識とともに、学校・保護者・地域と連携して安全・安心な学校づくりを推進し、危機管理意識を高める。(8・9)	B	A	A	A
	【改善の方策】 ・体力の向上に向けて、「朝なわ」や「なわとび集会」等を継続し、体育の準備運動でも縄跳びを積極的に取り入れていく。また、これらをきっかけや動機付けとして、外遊びを促していく。 ・食指導や保健指導、保健体育、安全教育等を結び付け、「健やかな身体育成プラン」を設定し、健康教育を推進する。 ・児童の校内外での安全への意識を高める指導のため、教職員だけでなく地域や保護者の声を集約・周知できるような体制・システムを整えていく。 ・校内でのけがの状況を捉え、未然に防ぐ環境づくり、児童の意識の醸成に取り組む。				
家 庭 ・ 地 域 連 携 わ く わ く プ ラ ン	【学校関係評価者による意見】 ・危険を乗り越えて「けが」をしない方策も考えられないか？ ・食育に関しては本年度も日本茶授業へのご理解とご協力、よろしくお願い申し上げます。 ※できれば他校との連携、教育委員会も！ ・これからも体力向上は課題です。引き続き、家庭と連携し取り組んでいく必要があります。 ・最近の子どもたちの体力低下がマスコミ等で話題となっていますが、円山の子どもたちは比較的小となしように感じます。 ・十分に取り組んでいただいています。これ以上は保護者の範疇と思われます。 ・体力向上の一環としての朝なわ等、縄跳びの地道な継続が身に付き、中学期に一つの効果を表している。部活の一つの野球部で取り入れているトレーニングの一つの縄跳び能力がここ数年高くなってきており、意欲や自信をもっている子が増えてきている。				
	学校運営や教育活動のねらい・実践・成果について積極的に伝えることを通して、子育ての協働者としての意識を高めるように努める。(1・2・3・4・5・9・10)	A	A	A	A
	学校と地域の双方にメリットのある「WIN TO WIN」の学社融合的な連携を探り展開していく。(6・7・8)	A		A	A
	【改善の方策】 ・どの時点で、どのような子どもの姿（成長）を、どのような手段で伝えるのか、目的や趣旨を明確にして参観懇談や家庭訪問、個人懇談等を計画・実施する。 ・学校教育説明会やスクールフォーラムに、よりたくさんの保護者が「参加できる」「参加したくなる」ような日程・内容・広報の仕方などを工夫する。また、参加できなかった方のために、使用したパワーポイントをホームページに今後も掲載する。 ・「保護者アンケートを教育活動にどのように生かしていくのか」を伝える方法を工夫する。 ・地域の「もの」「ひと」「こと」と教育活動を結び付け、児童が「地域の一員である」「たくさんの人とのかかわりの中で生活している」という意識や自覚をもてるようにする。				
家 庭 ・ 地 域 連 携 わ く わ く プ ラ ン	【学校関係評価者による意見】 ・地域でも子どもたちと一緒にいる行事やイベントを多く取り入れたい。 ・一般的に理解されやすい表記としての「WIN TO WIN」と考えますが、本来は地域で次世代が健全に育っていくこと自体が地域のことであることから、従来の様々な「地域協力」といった表記の方がよいのではとも思います。 ・地域の皆様のおかげで、学校と地域の関係は良好で嬉しく思っております。 ・学校と地域との連携を見ますと、計画段階での打合せが弱いように感じました。十分な準備期間が学校・地域双方にもっと必要と思います。 ・地域については十分に取り組んでいただいていると思います。家庭については、難しい面も多いとお察しします。 ・札幌市内のどこの小学校より家庭地域との連携プラン等が数多く提起されてるようで、この提言等が保護者さんの教育へのレベルの高さにさらに相互に意欲・関心を高めていくなど、相乗作用で効果的に働いているのでは？また、中学期に至っても向陵中の保護者の学校教育への関心は、強く、高いので、学級PTAやPTA全体の活動への協力や意識、関心の高さ、意欲的な行動力に高いものが見られるようである。				